

2008年6月5日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社

## ブラジルの政策金利引き上げについて

ブラジル中央銀行は6月4日の金融政策委員会で、政策金利であるターゲット金利を11.75%から12.25%へ引き上げることを決定しました。なお、今回の決定は同日の株式市場の引け後に発表されたものですが、事前に0.5%ポイントの追加利上げ観測が強まったことに加え、原油市況の軟調から資源関連銘柄が売られたことなどもあり、ブラジルの代表的な株価指数であるボベスパ指数は、3日に前日比2.6%下落、4日も同1.9%の続落となりました。

緊縮的な財政・金融政策などにより対外債務の削減に取り組み、ハイパーインフレを克服したブラジルでは、2005年後半以降、およそ3年にわたって金融緩和が続いてきました。ただし、国内景気の好調や国際的な商品市況の上昇などを背景に、昨年半ば以降、消費者物価指数が上昇傾向にあります。ブラジル中央銀行は、インフレ・ターゲット政策を採っており、現在、消費者物価上昇率の目標レベルを4.5%±2.0%としています。消費者物価指数は今年1月に前年同月比+4.5%を上回り、その後も上昇を続けています。こうした中、同中央銀行は4月16日に約3年ぶりに利上げを決定し、政策金利を11.25%から11.75%へ引き上げました。今回の利上げは、これに続く今年2度目のものです。なお、消費者物価指数の上昇率は、4月に5.04%に達していますが、前述の目標レベルの上限にはまだ余裕があり、これまでの利上げはインフレ加速への予防的意味合いが強いものであると考えられます。

インフレ・ターゲット政策のもと、同国中央銀行は、透明性の確保や説明責任を強化しつつ、目標達成に向けて政策を遂行しています。こうした努力は、同国をインフレ体質から脱却させただけでなく、人々のインフレ心理の安定化や企業・家計の中長期的な不透明感の緩和につながり、支出を刺激してきました。こうした流れを考えると、今後の物価動向等に注意は必要なものの、インフレ抑制に向けての今回の利上げは、ブラジル経済の安定・高成長の持続に資するものであると期待されます。

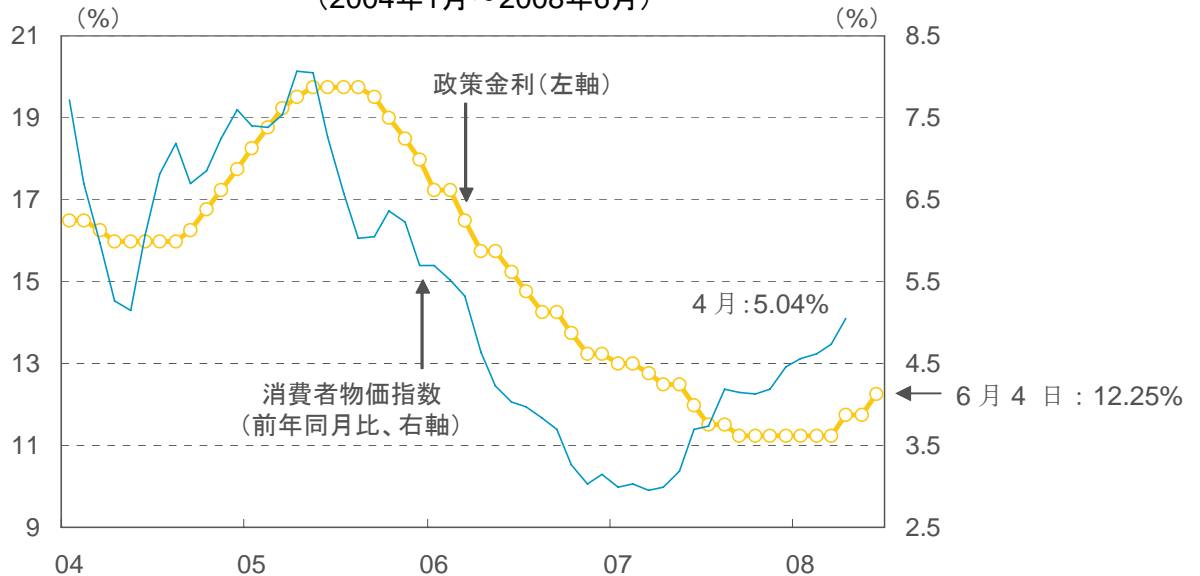
以上

---

■当資料は、日興アセットマネジメントがブラジル経済などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

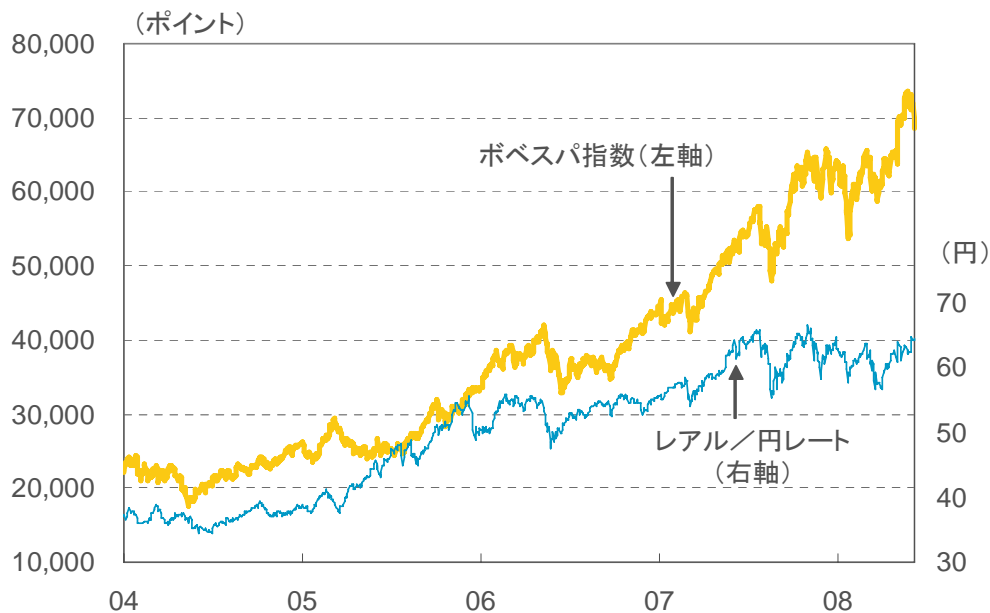
＜ブラジルの政策金利と消費者物価指数の推移＞

(2004年1月～2008年6月)



＜ブラジルの株価とリアル(対円)の推移＞

(2004年1月2日～2008年6月4日)



※上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。

■当資料は、日興アセットマネジメントがブラジル経済などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。